

# 彼女たちは、なぜ被爆地からマリア像を盗み出したのか——?!

岸田演劇賞、芸術選奨文部大臣賞受賞。  
戦後演劇史に輝く金字塔「マリアの首」、ついに映画化。



1945年8月9日11時2分、広島に次ぐ二発目の原子力爆弾が長崎市に投下され、人口24万人のうち約7万4千人が一瞬にして命を奪われた。東洋一の大聖堂とうたわれた浦上天主堂も被爆し、外壁の一部を残して崩壊。それから12年の時が過ぎて——、浦上天主堂跡から被爆したマリア像を盗み出す一味の姿があった。首謀者はカトリック信徒のふたりの女。彼女たちは、なぜマリア像を盗み出さねばならないのか……?!

終戦後76年の時を経た現代、あの戦争の記憶をけして風化させないために、戦後演劇史にその名を刻んだ金字塔がついに映画化される。原作は、長崎出身の劇作家・田中千禾夫が実話を基に書き下ろした、戯曲「マリアの首」。岸田演劇賞、芸術選奨文部大臣賞を受賞、寓話的かつ哲学的な作劇で、唐十郎や野田秀樹ら後の演劇人にも影響をあたえたといわれる。監督は、数多くのドキュメンタリーを手がけてきた、松村克弥。『ある町の高い煙突』でも見せた、ジャーナリスティックな視点と深い洞察力で、舞台劇の映像化を実現。キャストには、隠れキリシタンの末裔で、看護婦であり娼婦というふたつの顔を持つ鹿を高島礼子。闇市で詩集を売りながら、自分を犯した男への復讐を誓う忍には、黒谷友香。ふたりのヒロインをそれぞれが、母性と妖艶さをはらんで演じる。そのほか、田辺誠一、金児憲史、村田雄浩、寺田農、柄本明、藤本隆宏、温水洋一、馬淵英里何、宮崎香蓮、井手麻渡、城之内正明らが、重層的な人間ドラマを織り上げる。

主題歌には、長崎出身のさだまさしが「祈り」を提供。曲中のコーラスパートは、奇しくも、再建された浦上天主堂で長崎市民コーラスの協力を得て収録されている。さらに、美輪明宏が「マリア像」の声を唯一無二の存在感で演じ、作品に神秘的な世界をもたらしている。

## 映画『祈り 幻に長崎を想う刻』 バチカンで上映会



『祈り 幻に長崎を想う刻』の上映会が、11月21日、バチカンのフィルムotecaで催された。  
上映会で、千葉明・駐バチカン特命全権大使は、原爆による人々の犠牲を通じて、人類が戦争の不条理さを学んだならば、どれほど人々の心に叶ったことか、と語った。その上で、残念ながらウクライナや中東に見るように、この教訓を学びきれない状況の中、この作品の上映は重要な意味を持つ、と話した。  
松村監督は、「戦争ほど悲惨で残酷なものはない。原爆落とす前に戦争そのものは無くしたか」という言葉を、この映画のテーマとして示し、「私は祈ることしかできないけれど、それでもひたすらに平和を祈っていきなさい」という主題歌のメッセージを伝えていきたいと挨拶した。

## 「祈り—幻に長崎を想う刻—」特別上映会

松村克弥監督、井手麻渡（日立ふるさと大使・予定）の舞台挨拶があります

日時 令和6年5月26日（日）

午前の部 開場9:30 上映開始10:00 トークショー12:15

午後の部 開場13:30 トークショー14:00 上映開始14:15

（完全入れ替え制）

会場 日立市民会館ホール

〒317-0063 日立市若葉町1丁目5-8

主催 公益財団法人日立市民科学文化財団

入場料 全席自由1,000円（税込み）

前売り券販売（発売開始4月3日（水）午前9時発売開始）

日立市民会館 ☎ 0294-22-6481

多賀市民会館 ☎ 0294-34-1727

日立シビックセンター ☎ 0294-24-7720

ゆうゆう十王Jホール ☎ 0294-39-7111

問い合わせ先

日立市民会館 ☎ 0294-22-6481

休館日を除く9:00～17:30

「祈り—幻に長崎を想う刻—」2020年/日本/カラー/110分/シネマスコープ/5.1ch/配給:ラビットハウス/Kムーブ ©2021 Kムーブ/サクラプロジェクト

inori-movie.com @inori\_movie 映画「祈り—幻に長崎を想う刻—」